

参加者募集

2024

12/14 ± 15日

14日 13:00~17:00・交流会
場所 各フィールドワーク先

15日 09:00~16:00
場所 山梨県立大学
(飯田キャンパスB館)

多文化社会専門職機構 第8回実践研究フォーラム

参加対象

NPO・国際交流協会・自治体職員、研究者、
学生、その他この領域に興味のある市民等

参加費

会員2,000円 非会員3,000円 学生無料

申し込み



申込締切

12/10

<https://tassk-forum08.peatix.com/>

14土

＼フィールドワーク1／ 12:30

南アルプス市をあるく

アルプス市の関係先のみなさんと多文化共生を語り合います

＼フィールドワーク2／ 12:30

小菅村をあるく

限界集落にあって、多様性と働きがいの推進に取り組み、外国人を雇用し世界展開するビール会社を訪ねます

＼フィールドワーク3／ 14:30

山梨県国際交流協会を訪ねる

ここ数年で大きく変わった山梨県国際交流協会を訪ね、職員たちとゆっくりと語り合います

15日

＼09:00-11:35／

ラウンドテーブル

円座になり、発表者のことばに耳を傾け、対話することで、協働の学びを作ります

＼11:40-11:25／

協働実践研究

実践現場にいるものが、その実践を研究的な視点から考察し発表します

＼13:30~16:00／

シンポジウム

山梨の風土・地域文化などと多文化社会多文化共生との関連とは、地域にみる課題とは・・・

多文化社会専門職機構第8回実践研究フォーラム [山梨発] 地域から多文化社会・多文化共生を問う

日時 2024年12月14日(土) / 15日(日)

場所 14日 各フィールドワーク先

15日 山梨県立大学(飯田キャンパスB館)

参加者 40名程度(会員2000円、非会員3000円 学生無料)

詳細↓



本フォーラムでは、第3回以降、中期的テーマとして、「多文化社会における市民活動と専門職」(第3回～第5回)、「難民・避難民への対応と多文化社会の課題」(第6回～第7回)を設定してきました。第8回以降は、「地域から多文化社会・多文化共生を問う」を中期的テーマとします。グローバルなレベルで多文化化が急速に進む一方で、それぞれの地域では、風土や地域文化との関連の中で、多文化化がどのような社会状況や共生関係を具体的に生み出しつつあるのか、その過程での課題とは何か、などについて問うことを目的とします。

本年度は山梨で、来年度以降も地方開催を考えています。大都市で開催される都市型のフォーラムではなく、小規模でも、地域フィールドワークを組み入れるなど、地域の実情に即した、地域を実感するTaSSK型のフォーラムを試行したいと思います。

1日目 12月14日(土) プログラム

集合場所・時間が異なるのでご注意ください

各コースの訪問先などの詳細は参加者に12月10日頃に登録メールアドレス宛にお送りします

\南アルプス市と多文化共生/

集合時間 12:30 場所: 甲府駅改札前

市役所の外郭団体としての国際交流協会の設立とその自立性を中心に、市内の多文化に関わる活動・団体について、そこに携わる方々のお話を聞き、他の県内市町村と一線を画す市の多文化化は何がもたらしたのか、またその今後を共に考える。

\小菅村と多文化共生—Far Yeast Brewing/

集合時間 12:30 場所: 大月駅改札前

多様性と働きがいの推進に取組み、外国籍従業員を雇用し、世界展開するビール会社が、その本社機能を人口600名ほどの小菅村に移転。会社の思い、外国籍従業員の働き方や暮らし方、村民の声に触れながら、限界集落における多文化共生の在り方を共に考える。社会に向けた今後の交流が期待される。会社の思いと村民の声に耳を傾け、「多文化社会 小菅村」を共に描く会とする。

\山梨県国際交流協会と多文化共生/

集合時間 14:30 場所: JR身延線・金手駅

2023年の施設移転に伴い多文化共生センターをオープンし、外国人相談と地域日本語教育が共に事業を展開している。ここ数年間で大きく変容を遂げた山梨県国際交流協会の職員たちから、何が変わり、何が変わっていないのか、共に思いを丁寧に聞く会とする。

懇親会会場 奥藤本店 甲府駅前店 (甲府駅から2分)

参加希望者は全体の申込フォームにてお申込みください

食事: 甲斐の國コース 3,850円、(ドリンク別途)

時間: 17:30~20:00

場所: 山梨県甲府市丸の内1丁目7-4



地域フィールドワークの後、各自会場にご参集ください。
なお、宿泊場所へのチェックインも各自で行ってください。

多文化社会専門職機構第8回実践研究フォーラム [山梨発] 地域から多文化社会・多文化共生を問う

1日目 12月15日(日) プログラム

場所 山梨県立大学
(飯田キャンパスB館)

09:00 - 11:35 ラウンドテーブル

〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-11-1
JR中央本線 甲府駅 南口 徒歩20

時間	登壇者 会場 教室	登壇者 会場 教室
09:00 ~ 09:40	<p>外国人労働者のリスキングの可能性</p> <p>長尾 晴香 (株式会社link design lab / 一般社団法人ViVarsity代表) 特定技能や育成就労の日本語要件などは語られる一方、人材育成の視点やリスキングなどはあまり議論がされていないように感じます。生活者も含めて日本社会を支える外国人労働者に対するリスキングの可能性を考えてみたいのです。</p>	<p>労働相談のあれこれ</p> <p>佐藤 珠己 (CINGAコーディネーター)</p> <p>最近担当した労働相談のテーマを振り返ります。また、外国人を対象とした裁判例を紹介しつつ、最近増えてきている「国際私法」の考え方を紹介します</p>
09:50 ~ 10:30	<p>日々の小さな色々なものと「ちょっと」ずつ、つながりながらまちで生きる活動実践</p> <p>佐野 香織 (長崎国際大学 / ながさきWell-beingミライ研究所) 国レベルの地域日本語教育の語りが先にあると、それが「当たり前」のように思いがち。けれども日々の暮らしの中で「ちょっと」ずつつながっていることから「わたし」「わたしたち」のことは考えていきたいと思っています。</p>	<p>外国人支援コーディネーター養成の在り方に関する検討会に参加して</p> <p>青山 亨(東京外国語大学・理事)</p> <p>出入国在留管理庁は2年間の検討を経て今年度から外国人支援コーディネーター養成研修を始めました。また、現在、今後の外国人支援コーディネーター養成の在り方に関する検討を進めています。検討会に参加して感じたことを共有したく思います。</p>
10:40 ~ 11:35	<p>地域防災において「日本人」「外国人」の枠を超えた共助をどう実現するか</p> <p>菊池 哲佳 (多文化社会コーディネーター) 近年、地域防災において「日本人」「外国人」の枠を超えた共助をどう実現するかが重要な課題になっています。筆者が制作した教材「多文化防災ワークショップNICE!」を紹介し、この課題を乗り越える上でのコーディネーターの視点について考えます。</p>	<p>外国人相談業務の限界</p> <p>杉田 理恵 (東村山市市民相談交流課多文化相談員)</p> <p>在住外国人数の増加に伴い、相談内容は多岐にわたり、外国人相談窓口以外でも対応する必要性が顕在化してきています。外国人相談だけでは限界を迎えていると感じ、この課題を検討したいです。</p>

11:40 - 12:25 協働実践研究発表

時間	発表者 会場	発表者 会場
11:40 ~ 12:25	<p>多文化社会におけるcommonsとしてのコミュニティづくりの場~浜松市におけるパティ活動の可能性~</p> <p>松岡真理恵 (公財) 浜松国際交流協会</p> <p>派遣労働者や技能実習生など社会に都合のいい労働者として位置づけられる外国人の社会経済的な格差を乗り越える装置として、コミュニティづくりの場が機能するか、考えます。</p>	<p>地方における相談事業体制の構築~実践から考える~</p> <p>丸山文 (NPO法人中信多文化共生ネットワーク)</p> <p>外国人相談において、専門人材の役割や専門性について検討がされました。人材の育成だけでなく、相談事業が実施される体制の検討も重要だと考えます。試行錯誤の実践から、相談事業の体制づくりについて考えたいです。</p>

昼食は各自ご持参ください 近隣にコンビニ等はありません

13:30—16:00 全体シンポジウム

[山梨発] 地域から多文化社会・多文化共生を問う

13:30—13:50 フィールドワーク報告共有

13:50—14:50 報告

「多文化共生を阻むもの・活動の中での考察」

山崎俊二（山梨外国人人権ネットワーク・オアシス 事務局長）

長らく山梨において活動を続けており、現在「山梨外国人人権ネットワーク・オアシス 事務局長」「社会福祉法人ぶどうの里 理事」「ライフサポートやまなし 理事」「こどもサポートやまなし 理事」「女性の人権サポート・くろーばー 監事」等を務める



「グローバルな知（地）のこれから」

杉山歩（山梨県立大学学長補佐、地域人材養成センター長、国際政策学部教授）

山梨県躰沢町（現・富士川町）出身。博士（理学）。地域資源からの価値創造をテーマにデータサイエンス、観光学、知識科学分野を中心に学際的な教育研究活動を行う。文部科学省による地方創生関連の事業で責任者等を務める。2019年に第一回STI for SDGSアワード文部科学大臣賞を受賞。



「多文化化の進行と大学の役割—現場感のある教育を」

長坂香織（山梨県立大学 地域人材大学養成センター 特任教授）

米国イリノイ大学にて修士号取得。中国四川大学友好教師、山梨県立看護短大准教授、山梨県立大学看護学部教授を経て現職。その間、CLAIR認定多文化共生マネージャー、東京外国語大学多文化社会コーディネーターコース修了。任意団体JUNTOSおよびAIMY代表として、多文化共生関連活動に携わる。



「なぜ [山梨発] なのか!？」

新居みどり（多文化社会専門職機構理事多文化社会コーディネーター）

東京外国語大学多言語多文化教育研究センター（現多言語多文化共生センター）、国際移住機関（IOM）コンサルタントを経て、現在はNPO法人国際活動市民中心（CINGA）に勤務。



15:00—15:20 登壇者セッション

15:20—15:50 全体セッション

詳細↓

主催 多文化社会専門職機構
共催 山梨県立大学
後援 山梨県国際交流協会

お問い合わせ
一般社団法人多文化社会専門職機構 10:00~16:00 (平日)
東京都千代田区神田神保町2-3 神田古書センタービル6F
TEL: 03-6261-6145 E-mail: office@tassk.org

